

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年12月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670800384
法人名	有限会社 精祥
事業所名	グループホームやまぶき
所在地	鹿児島県出水市上鯖淵48-1 (電話) 0996-63-4176
自己評価作成日	令和元年10月30日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和元年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、同一敷地内に介護付き有料老人ホームがあり、広々とした敷地内で散歩や日光浴、園芸作業も出来る環境にある。1階は、コンビニエンスストアへの入り口もあり、外に出ることなく買い物に行くことが可能である。すぐ近くに出水駅もあり利便性にも恵まれている。入居者がそれぞれのペースを保ちつつ、家庭的な雰囲気の中で残存機能を活かしながら支援を行っている。毎日の生活の中に楽しみの時間を持つ様、季節に合わせた様々な行事を企画し、ドライブや外での昼食会などの外出支援や、日々のレクリエーションにも取り組んでいる。ご家族がいつでも気軽に足を運んで下さる様なグループホームを目指し接遇面には特に力を入れている。入居者と職員がいつでも一緒に笑い合えるホールにすべくサービスの質の向上に努めている。

当ホームは、母体法人が運営する介護付き有料老人ホームの2階に位置し、スロープを通過して2階の玄関から出入りすることができる。近くには川を挟んで商店街があり、市役所やJR出水駅も近く利便性に優れているため、地域や行政との交流が得られやすい環境にある。また、建物内にコンビニエンスストアがあり、利用者は一人で出かけ、友人との交流の場にもなっている。

利用者の希望に沿った支援となるよう、利用者中心の生活を目指して理念を掲げ、職員心得、接遇目標と共に毎朝唱和することにより、実践に繋げている。委員会組織として、①レクリエーション企画、②接遇、③環境、④学習、⑤給食、⑥感染対策、⑦安全対策・拘束廃止、⑧防災、⑨安全衛生の9つを設置し、職員はいずれかに所属して部署会議への参加が義務付けられている。利用者に対しては書道、工作、生花、カラオケの4つのクラブ活動が各々月1回ずつ行われており、希望に合わせて参加して作品作り等を楽しんでいる。

職場環境として、職員間や職員と利用者間においてお互いのコミュニケーションを十分に図り、特に職員に対しては、管理者からの声かけ、資格取得への支援、人事考課を踏まえた個別面談などを通して、より良い人間関係が構築されることにより、サービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時にその日の出勤職員全員で唱和する事で意識付けを行っている。	「一緒にふれあい、笑顔のある家庭的な暮らし」を施設開設以来の理念とし、リビングに掲示している。また、理念は法人共通の職員の心得、有料老人ホームと共通の接遇目標と共に毎日の朝礼で唱和し、職員間での共有に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りには地域の方を招待している。自治会の行事にも参加している。	地域の自治会に加入しており、有線放送を介して地域の情報を把握している。近隣の人々からの梅や野菜等の差し入れを頂き、加工食品を作ったり、中学生の年2回の職場体験や慰問ボランティアを受け入れるなど、地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議を通して、情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告に加え、事故・ヒヤリ・ハットの報告も行っている。会議上での意見や要望をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2月に1回開催し、家族・自治会長・市職員・民生委員等が参加して入居状況、活動報告、事故・ヒヤリハットの報告等を行っている。会議の議事録は毎回、外部評価の結果と共に掲示している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂いている。また、事業所便りも届けている。質問や相談などは、その都度電話等を利用して行っている。	運営推進会議には市の担当者が毎回出席しており、すぐに来所してくれたり、生活保護受給者を受け入れているため、地域包括支援センターの職員が空室状況確認のため来所される。また、行政主催の研修会にも積極的に出席するなど、市との協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全対策・拘束廃止委員会を設置し、拘束をしないケアに取り組んでいる。法人全体での学習会に加え、事業所でも学習会の機会を設けている。	身体拘束に関する勉強会を年間計画に取り入れて実施したり、法人全体での研修も行われている。「身体拘束等の適正化に関する指針」を作成し、安全対策・拘束廃止委員会を中心に拘束しないケアに取り組み、月1回の部署会議には職員全員が参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での学習会に加え、事業所でも学習会の機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を中心に外部研修で学ぶ機会を持っている。今後は勉強会で理解を深めていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に十分な説明を行っている。不明な点は、その都度問い合わせる関係性をつくる様努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や運営推進会議で意見や要望を頂いている。また面会時にも聞き取りを行い、遠方の家族には電話等で要望等を伺っている。</p>	<p>入居者や家族の意見・要望等は、日々の関わりや面会・電話等で把握に努め、職員間では口頭や申し送りノートを通して情報を共有し、何でも話してもらえるような声かけを行っている。グループホーム便りを3か月毎に作成して家族に郵送している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の部署会議で意見や提案を聞いている。個別の相談へはその都度応じ、働きやすい環境作りに努めている。</p>	<p>職員へは毎月の部署会議で意見等を聞くので、事前に考えておくように伝えている。法人で作成した「職員用個人評価シート」を職員が6か月毎に記載し、年1回個人面談を実施するなど、コミュニケーションが密にとれる職場環境作りに努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の意識の変化を狙いとして年に1回「個人評価シート」を提出してもらっている。個人面談にて評価を伝え、意見の聞き取りを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体で、新人研修・中堅研修・リーダー研修・管理者研修など力量に合わせた研修を行っている。外部研修へ参加した際には、伝達講習で他職員へ伝えられている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入している。他のグループホームを訪問したり、電話等で情報交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の思いを傾聴し、信頼関係が築ける様努めている。思いを伝えられない方に対しては、入居者本位で考えたケアにより安心の確保に努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前より聞き取りを行い、プランへ反映させている。入居時には十分な説明を行い、不安な事は質問して頂いている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>十分な聞き取りを行う事で必要な支援を見極めている。本人に何が必要か、家族と一緒に話し合っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事等、出来ることは一緒に行い、役割を持った生活が送れるような支援をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態変化や受診等はその都度報告し、家族へ相談している。行事への参加も呼びかけを行い、日常の様子を見て頂く機会を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外食や買い物等、馴染みの場所へ外出する機会を作っている。地域の行事へも参加している。	家族や知人・友人の訪問があり、面談や電話・手紙の取り次ぎも行われている。食材の買い出しに職員と出かけた。馴染みの場所へのドライブや墓参りに行くなど、入居者が希望する所へ出かけられるような機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で会話出来るよう座席などの配慮をしている。会話の難しい入居者へは職員が間に入り、良好な関係が築ける様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話など相談があればその都度対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いを聞き、ケアに反映させている。聞き取りが困難な場合は、家族へ相談したり、本人の表情や様子などから要望を汲み取っている。	入居者の思いや望む暮らしについては、日々のケアを通して利用者の様子から汲み取り、家族からの情報も参考に把握に努めている。得られた情報は申し送りノートに記録して閲覧した職員は押印し、その他介護記録や支援経過記録、利用者入居者基本情報にも情報を得るたびに追加記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会の際に家族から情報を聞き取っている。サービス利用の経過については、関係機関からの情報提供も得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースで生活出来るよう支援している。変化があれば報告し、職員が現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からの気付きは部署会議を中心にあげてもらっている。本人・家族からの要望も聞き取り、プランに反映させている。状態変化があれば、家族へも相談し、見直しをしている。	利用者や家族の思い・要望を確認し、職員の気づきも反映させながらケアプランを作成している。カンファレンスは6か月に1回、サービス担当者会議は1年に1回開催し、状態変化があった場合、その都度プランを臨機応変に見直し、現在の状態に見合った計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>記録と介護計画を同ファイルに綴ることで、プランに即したケアが実践出来るよう努めている。状態変化は漏らさず記録に残している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族からの要望に応じた、柔軟な支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事への参加や、買い物などの外出も支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関へは、月2回の往診を依頼している。希望のかかりつけ医を望まれる方へは、受診支援を行っている。</p>	<p>利用前から継続してかかりつけ医への受診を望む場合や他科受診の場合は、職員が付き添って受診を支援している。協力医療機関からは月2回の往診があり24時間体制で連携が取れており、当施設には看護師の配置もある。受診結果は介護記録に記載して職員間で情報共有し、結果に変化があった時は家族に報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や気づきは、その都度看護職員へ報告している。日々の健康観察に努め、変化を見逃さないようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会時や、電話などで情報を得ている。早期の退院に向けて家族も含めて相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りに関する指針を説明し、同意書を交わしている。状態変化があり、看取りとなった場合は、家族や主治医との連絡を密にしながら支援している。看取りについての勉強会も行っている。	重度化した場合は「医療連携体制同意書」の中で、看取りの場合は「看取りに関する指針」において、利用開始時に家族に説明して同意を得ている。当施設では実際に看取りを経験しており、「ターミナルケアの同意と経過記録」を説明して同意を得て、随時カンファレンスを行い、チームでの支援に取り組んでいる。家族間の気持ちの調整においては、キーパーソンの意向を大切にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会や、部署会議で学習する機会を設けている。緊急時や事故対応のマニュアルも作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、併設施設と合同で防災訓練を実施している。防災対策委員会を中心にマニュアル・組織図も作成。備蓄品や防火設備の点検も定期で行っている。</p>	<p>日中及び夜間想定を含む防災訓練を消防署の立ち会のもとで、年2回実施している。防火・防災対策マニュアルや防犯対策マニュアルに基づき、「消防計画細則」で組織図も作成している。備蓄は併設の有料老人ホームに殆ど揃っており、当施設では水とカップ麺を保管している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての研修や学習会を行っている。接遇委員会を中心に、職員間で注意し合える関係を作り、職員本位での対応にならないように努めている。	利用者の気持ちや意見を尊重して接するように心がけている。接遇についての研修は年間計画で組み込まれており、全体職員会議後に全職員の参加が義務付けられている。また、有料老人ホームと共同で接遇目標を掲げて、毎朝唱和している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人からの訴えを傾聴している。常に声掛けを行い、自己決定を促し、表現が難しい方は、表情などを観察しその思いに寄り添っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせた生活を支援し、業務優先にならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪・髪染めなど希望に応じて対応している。入浴時には一緒に服を選ぶなど、本人の好みを伺っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮剥きなど、出来ることを手伝ってもらったり、味見をお願いしている。茶碗やテーブル拭きも依頼している。	利用者の状態により、買い物、包丁を使ったり下ごしらえをする、テーブル拭きや準備・後片付け、菜園での野菜の収穫等、できることを一緒に行っている。職員も一緒に同じ食事を摂り、行事食の提供や誕生日にはリクエストに応えるなど、生活の中で食事が楽しみとなるような支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	硬いものは刻んだり、ブレンダー食の提供など本人に合わせた食事形態を行っている。水分摂取もこまめに促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に応じて見守り、仕上げ磨きなどの支援をしている。うがいが必要な方へは、ガーゼを使用し清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意・便意のない方へは、日中は定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。排泄チェック表を利用し排泄パターンを把握するよう努めている。	できるだけトイレで排泄できる支援を行っており、排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、普段の様子も十分観察してトイレ誘導を行っている。夜間のみポータブルトイレを使用したり、オムツ用品を利用者の状態に合わせて使用するなど、個別的な対応となるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を使ったり、水分摂取が少ない時にはこまめに回数を増やし摂取を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	時間を決めず、本人の要望に応じて入浴を行っている。拒否のある方には、時間を置いて声掛けするなど、無理強いしない対応をしている。	週2回、1人20分～30分程度で職員が1対1で介助している。希望に応じてシャワー浴や足浴も可能であり、ぼんたん湯・ゆず湯などで季節を感じることができる。入浴剤も毎回使用し、入浴後の水分補給や保湿剤の使用等にも心がけている。入浴をためらう利用者には時間や関わる職員を変えるなど、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の訴えや、状況を見ながら休息への支援を行っている。共有部分の畳部屋で休んで頂くこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があれば、申し送りノートや日誌を通じて周知している。職員同士で確認しながら服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションに加え、ドライブや外出などの支援をしている。併用施設と合同での行事も企画している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食やドライブなど、本人の要望に合わせた支援を行っている。季節に合わせた外出プランも企画し、実行している。	外出することへの支援はとても大切であると感じており、花見・夏祭り・ソーメン流しなど季節に合わせた外出を実施している。散歩・隣県のバラ園等へのドライブ・弁当持参で歩いて行ける外出など、できるだけ利用者の希望に合わせた外出を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族からの預り金は、管理者が管理し買い物や外食の際に使用している。預り金で買い物をされる際、支払いを自分でさせている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の希望があれば、その都度対応している。家族が気軽に電話を掛けられるような雰囲気作りを心がけている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な雰囲気になるよう、季節毎の飾り付けも工夫している。居心地良く、安心・安全な空間作りを行っている。座席や家具の配置もその都度検討している。</p>	<p>広々としたフロアには、季節ごとの飾りや入居者の写真、職員と一緒に作った作品等が飾ってあり、行事等に合わせて定期的に張り替えられ、居心地のよい空間となっている。ソファを数多く配置し、段ボールを活用したテーブルを作ってお茶を飲んだりカラオケを楽しむなど、憩いの場となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファ・テーブル席・畳など準備し、好みの場所で過ごせる様支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの物を持ってきて頂いたり、本人が使い勝手の良いよう工夫して支援している。安全面での配慮も行っている。</p>	<p>西向きの居室にはクローゼットが、東向きの居室にはタンスがあり日差しを調整している。ベッド、床頭台（しょうとうだい）、エアコンが備えられている。入居者は掛布団等を持参するなど、馴染みの物を自由に持ち込むことができる。入居時には持参する物が少ない場合でも家族に持参してもらい、居心地よく過ごせる環境作りに努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室のネームプレートやトイレはわかり易く表示している。ポータブルトイレの設置を行い安全かつ自立した環境作りを行っている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない